

鍼灸の魔術師

(41)

ペンギン・文・育

肺炎から痴呆に？

◎血液の循環が悪い



ゼを引いたにもかかわらず、そのままほっておき、そのカゼが治らないで、とうとう肺炎を起こしてしまつた。病院へ行つたときは危険な状態ですぐ手術が行われた。

スズキさんの場合

従業員四十人を持つ工場経営者スズキさん（五七歳）が痴呆のようになつてしまつたのはカゼを引いたことから始まつた。つい忙しさにかまけてカ

手術は成功したが、それ以来、どんどん悪くなつて廃人のようになってしまつた。なにも考えられない、覚えられない、仕事はもちろんのこと、普通の生活にもことを欠いた。

になつており、五歳以下の幼児のようだった。そんな大変なときに不幸は重なるもので、信用していた部長が横領を働き、顧客を持つて会社を出て行つてしまひ、倒産寸前に追い込まれた。

量の血液を失ひ心臓や肺が弱つてよく循環してない。そのため脳に血液が不足しているの、脳が充分に働いていない。またあまり多量の薬を飲みすぎて胃を始めとした内臓がすつかり弱つてしまつてゐる。

肝臓はほとんど働かずに、肺炎になる一歩手前まで来ていた。肺と腎臓もよく働いていなかった。

体がよく循環してないため、耳鳴りや不眠、多尿が起きてゐると診断した。

そこで針、灸、漢方薬の三つでスズキさんを治療開始した。

一、内臓とくに胃を強くしてまずよく食事が取れるようにし、『氣』が弱くなつてゐるのを補強し始めた。

二、肝臓、腎臓を強くし、抵抗力が生れるようにし、自分の治療力を回復された。三、肺を強く、抵抗力をつける漢方を処方した。

治療の結果

合計二十四回の治療を行つた。三回目で劇的な効果が現れ始め、十回目にはほとんど前と同じように普通の生活が営めるようになり、自分で車を運転して来診した。

その後、突然来なくなつたので、二か月たつたころ電話をしてみると「仕事が忙しくて、出られない」という返事でもとも元氣そうだった。

先生は、氣になつて一年目に連絡をとると「仕事も順調で今はみな健康で幸せに暮らしてゐます」と心から感謝された。

新しい住所

ペンギン先生の診療所は次へ移転した。聖市パウリスタ区パンブローナ街九八八番一階。診療所（電話11・325 3・6503、325 3・6659）へ。